

令和6年度第2回蓮田市社会教育委員会議 会議録					
開催日時		令和7年3月17日（月）			
		午後2時00分 開会		午後3時10分 閉会	
開催場所		蓮田市役所 2階 201会議室			
委員出席状況		氏 名	出 欠	氏 名	出 欠
		今井 和	出席	佐々木 隆彦	出席
		栗原 均	出席	田辺 雅治	出席
		小池 祐子	出席	松本 直大	出席
		近藤 純枝	出席		
事務局出席者		西山教育長 （社 会 教 育 課）横田生涯学習部参事兼社会教育課長、 飯野副主幹、大西主事、山崎主事 （文化スポーツ課）齋藤技師			
傍聴者		なし			
会議事項	議 事				
	（1）令和7年度社会教育関係団体への補助金交付予定について				
	（2）令和6年度埼玉葛郡市社会教育振興会及び 埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会の現状について				
	（3）蓮田市生涯学習推進指針策定に向けた意見交換について				
	（4）令和6年度社会教育事業報告及び令和7年度計画について				
会議経過（議事の要旨）					
1．開会 今井委員長より挨拶を行った。 西山教育長より挨拶を行った。					
2．議事 （1）令和7年度社会教育関係団体への補助金交付予定について 《事務局》 資料に基づき説明。					

《委 員》 質疑なし。

《委員長》 昨年度蓮田市議会で、子ども会等の様々な団体の所属人数が減ってきており、それに対して補助金の額が妥当なのかという話が出た。子供の数で決まるものではないと考えているが、各団体にはこの金額に妥当性があるのかどうかという点について、説明ができるようにしておいていただきたい。その旨を各団体にお伝えいただきたい。

(2) 令和6年度埼玉葛都市社会教育振興会及び埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会の現状について

《事務局》 資料に基づき説明。

《委 員》 質疑なし。

(3) 蓮田市生涯学習推進指針策定に向けた意見交換について

《事務局》 資料に基づき説明。

《委員長》 事務局から説明があったように、最終的には生涯学習推進指針を作っていくというのが大きな目的となる。我々の今の置かれてる現状は何かということベースに置いて、そこをしっかりと認識して分析しておかないと、推進指針ができてきたときに何を言っているのかわからないということになりかねない。そういうことは我々としては避けたい。指針の策定によって、「蓮田はやっぱり住みやすい」というところを、ぜひ目指していきたい。

蓮田は教育や学習といった面については、非常に利点が多い場所だと思っている。まずは課題が何か、皆様の忌憚のないご意見を聞かせていただいて、そこからスタートしていきたい。

《委 員》 どのようなスパンで決めていく予定なのか。半年で決めるのか、1年かけて決めるのか。

《事務局》 事務局としては、短くても2年はかかるのではないかと考えている。委員の皆様にご意見をはかりながらまとめて、最終的には諮問答申という形で進め、パブリックコメントも実施することを考えると、最低でも2年はかかると思込んでいる。

《委員長》 最低2年ぐらい使って、できれば5年から10年ぐらいのスパンで進めると

いうところか。

今皆様が様々な立場で実際にいろんな活動されている中で感じている課題についてコメントをいただきたい。

《委 員》 生涯学習というのは大変幅広い。社会体育、社会教育、生涯スポーツ、生涯活動など、分野が幅広いところがある。また、子供から高齢者までを対象としていると思うが、まず対象者をどうするかということ。それから、対象者の中でも、文化的なものかスポーツ的なものかという、整理が必要だと思う。一つひとつ、乳幼児に関すること、それから小学校の放課後、中学校の拠点校部活動など、まずは詰めた方がいいのではないかと感じている。

《委員長》 例えば対象者を三つぐらいのグループに分けたとして、青少年、実際に社会活動されている壮年層、高齢者など、切り分けによって方法は異なってくる。まずはそこを明確にする必要があるのではないかというご意見。
なおかつ、各年代の縦軸に対して横軸が分野であったり、そこをマトリックスにして整理していく必要があるのではないか。

《委 員》 その通りで、どこに問題があるかというのが見えてきたら、そこを重点的に取り組んでいくのがいいのではないかと考える。

《委 員》 学校現場という観点から現状という形で述べさせていただく。先ほど放課後という話があったが、子供たちの学校外の居場所が充実していくことが必要だと感じている。平日の放課後もそうだが、土日や長期休業日も含めて。習い事がたくさんできる子供たちには居場所がある。そうではない場合には、家の中でゲームを楽しんでしまう。学校の時間以外のところで、何かしら受け皿や、学びの機会を充実していくことがまずは大切だと感じている。

《委員長》 居場所がないと感じている子供が多いということか。

《委 員》 全てではないが、土日がつまらないとか、ご両親が働きに出てしまう場合もある。特に夏休みだと平日も。そういうときに、参加できる機会があれば子供たちも足を運んでいくのではないか。

《委員》 ボーイスカウトは小学校一年生から活動ができるが、最近子供たちが習い事など、忙しくなっている。小学校に入ったときには月曜日から金曜日まで、習い事が決まっている子供もいる。

両親も共働きが多い。下手をすると、私たちはボランティアでやっているが、子供を預ける場所として捉えられてしまうこともあり、困っている。体験集会を行っても、体験だけで次の活動に結びつかない。保護者に何かやってほしいと言うと後ずさりされてしまう。どの団体でも言えることだと思うが、保護者の協力がなければ団体は成長していかないし、子供たちは体験ができなくなる。大人が関わらなくなると、将来的に指導者として、生涯学習として生きがいを感じる人も減ってしまうと感じている。

最近まちを歩いてみても、子供たちが群れを作って遊んでいる姿が見えない。この現状に問題があるように思う。子供たちが群れる教育ができるような、そのような生涯学習の場ができればいいのではないかな。

《委員長》 まずは、指導者のなり手が少なくなってきており、保護者のサポートも得づらい。いわゆる青少年系の活動をされている中で、コミュニティをどう運営していくかということもひとつの課題である。

保護者の意識が、社会教育にあるのではなく、子供を見てもらえる場という意識も出てきていると。子供の居場所をどこが作り、どのように運営していくかが課題ではないかな。

《委員》 肌感覚として、人や地域との関わりを面倒だと感じる人が増えたと思っている。PTAを長くやっていたが、PTAや子供会や自治会など、負担ばかりでメリットがないという捉え方をする人が多い。違う世代との関わりがなく、さらに地域と離れていくというのが現状だと思う。子供たちは上手に繋がっていけるのに、大人がうまく繋がれていない。個人で繋がりたい人はいるが、自分の生活で手一杯で、外にまで目を向けられないのかなと感じる。先ほど休日の居場所という話があったが、土日の活動があっても仕事で送迎ができないと断られてしまう。子供たちは家で何をしてるんだろうという心配がある。

《委員長》 フルタイムで働いて、土日に活動するにはパッションがないと難しいというところもある。各家庭で生活のレベルをどうやって維持するか、地域の活動にまで手が回らないご家庭が多いのではないかな。

逆にそこは社会教育の中で言うと、社会の担い手が入ってこない、入れない状態。子供はやりたいと言っても、親が了承しない場合もある。

《委員》 小中学生の参加は、半分は親の意思でもある。

《委員長》 参加費の問題や、送迎ができないという事情もある。

《委員》 スポーツ推進委員連絡協議会は、月に1回全体会議を行っている。基本的には皆でできるスポーツを体験してもらう活動で、高齢の方や誰でも参加できるような、さいかつぼーる、モルック、ボッチャなどの新しいスポーツを紹介させていただいている。

今抱えてるひとつの問題としては、サブアリーナ建設中のために今まで使っていた体育館が使えないということ。さいかつぼーるなどを皆さんに体験してもらう機会がなかなか作れない。自治会ですとか、各団体からの依頼を受け、モルックやボッチャを実施することが多かった。10名ぐらいの方々に対して3名程度が出向き、体験してもらった。

ちょうど先週の日曜日に中央公民館で公民館登録利用団体祭があり、ボッチャをさせていただいた。30名ほどに集まっていたけど、3分の1が子供、残りはまた高齢者のかただったが、非常に良かったのは、笑いがあること。競技だが笑いがある。これが、先ほど言葉出てきたウェルビーイングに繋がると思う。活動によって、みんな心が豊かになって、お互いを尊重し合うような機会に貢献しているんじゃないかと思っている。

《委員長》 参加してもらおうと効果があるが、逆に、情報が皆さんに伝わっていないというところもあるかな。

《委員》 そのように認識している。市の広報をメインに周知している。
直近の課題としては、体育館が使えないことと広報。

《委員》 ハストピアだと、車がないと行くことができない。

《委員長》 アクセスの問題もある。

《委員》 今回生涯学習というテーマでの話があり、生涯学習とは何か改めて調べた。平成18年の教育基本法の改正により、第3条に生涯学習という言葉が出たということで、それまでないがしろにされていたのかと思った。その中に、「豊かな人生を送る」と書いてある。具体的に豊かとは何かとなったときに、評価できるような言葉があればいいと思う。

民生委員の立場から言うと、子供に関しては、教育の機会均等で、経済的な理由で教育を受けられない場合は行政からの支援が必要であり、高齢者についてはどちらかというと、実際問題が出たときに動く。これが多い。

三郷での研修では、超高齢というのは90以上。今は健康寿命より貢献寿命であるという話があった。家の前のゴミ拾いを毎日やることだって立派な貢献だと。高齢者が豊かな人生を送るために、元気なときに積極的に関わりができるような政策と、それを具体的に測るものができればいいと思う。

《委員長》 高齢者の中には、精神的な高揚感が、だんだんと少なくなってしまう方もいる。そこをどうフォローしていくのか、自分がやってよかったと思えることをどう作っていくかがポイントになってくるか。

私は子ども会で活動しているが、感じていることは皆さんと重なる。

一つは、どのように子供たちに情報を伝えていくか。今年の2月に子ども会でキャンプを行った。今回教育委員会のご協力いただき、全校の児童生徒に配布したところ、100人の応募があった。子ども会以外で来た方が60～70名ほどだった。アンケートで応募の理由を尋ねたところ、子供が行きたいということ、保護者が見て、こういう活動があるなら行かせてみたいと。1泊2日で15,000円ほどでいい金額ではあったが、コストパフォーマンスも踏まえて参加を希望する家庭もある。皆さんにどうやって情報をお伝えをするか、活動の面白さを伝えていくかは課題である。

二つ目に、子供が行きたいと言っても、送迎等の様々な事情で保護者が参加させられないという話をどのようにカバーしていけばいいのか。どう保護者のサポートを受けるかも、多くの団体に共通する重要な課題だと思ってい

る。

また、最近の情勢を見ていると、蓮田の中でも家庭の経済状況の差が広がってきている印象を持っている。キャンプでも、15,000 円でも中身を見比べると安い、参加させたいという方、そうではない方もいらっしゃる、そこをどう救っていくのか、対応していく必要がある。

従来と同じように活動していくと、どうしても組織が弱体化してしまう。やはりある程度の大きさの単位で、コアメンバーが5～10人いて、それを周りでサポートする人がいて活動していくのがいいのではないかと感じている。だから、そのような形のものをマトリックスの中にどうやって活かしていけばいいのか。そういったところが、指針につながっていくのかなと思う。特に高齢者も、後期高齢者75から85が勝負。そういった方たちのことも含めて、今日よかったなという日を少しでも作れると、精神的な余裕もできてるのではないかなと思う。そういうところを目指していく。

ここにいらっしゃる皆さんの現状の認識というのはこういうところかなと思う。これをベースに、事務局の方で整理をしていただき、今日ご提示をいただいている蓮田市第5次総合振興計画や教育大綱、国や県の方針との比較をしながら、蓮田市の課題を再度整理していただきたい。

従来だと年に2回ほどしか集まってないが、都合を見させていただき、整理ができた段階でもう一度お集まりいただく方向で検討したい。そのような方向でよいか。今後の日程については、事務局と相談させていただきたい。

(4) 令和6年度社会教育事業報告及び令和7年度計画について

《委員長》 例年だと資料を基に事務局から説明をしていただいていたが、目を通していただき、ご意見がある方は、社会教育の方にまずコメントを上げていただき、もし何か重要なことで論議をしたいということであれば次回とする。

《委員》 了承。

3. 閉会

横田生涯学習部参事兼社会教育課長より、閉会挨拶を行った。